

令和7年度 津田中学校 学校評価

	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	活動計画	評価指標	評価	学校関係者の意見	
学習指導	<p>1. 生徒の基礎的な知識・技能の定着と学ぶ意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。</p> <p>2. 生徒の学習習慣の確立と学習方法の習得を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>1. 学びへの興味・関心をもたせるため、GIGAスクール事業の一人一台端末などのICT活用に積極的に取り組む。また、生徒同士の協働の場面をつくるなど、アクティブラーニングの手法を取り入れる。</p> <p>2. 自主学習ノートの使い方の指導を行ったり、持ち帰った一人一台端末を有効に活用し家庭学習の方法や内容を提示したりすることで、学習方法及び学習習慣の定着を図る。「家庭学習の手引き」を作成し、学習指導に役立てる。</p>	<p>1-①. 「ICTを利用した授業が行われている。」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>1-②. 「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2-①. 「家庭学習が習慣化している。」と答える生徒・保護者が85%以上となる。</p> <p>2-②. 「家庭学習の方法を身に付けている。」と答える生徒が80%以上となる。</p>	<p>1-①. 「先生はICTを活用した授業を行っている。」と答えた生徒は74.2%であった。</p> <p>1-②. 「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答えた生徒が86.0%で目標を上回った。</p> <p>2-①. 生徒65.6%、保護者62.6%となり、目標を達成できなかった。</p> <p>2-②. 63.5%であり、目標を達成できなかった。</p>	<p>○タブレットやデジタル教科書を使用しはうが分かりやすいとは感じるが、タブレットに振り回される可能性もある。授業の中で、本物（実物）を見ることが大切である。ITのよさを生かす授業を大切にしてほしい。</p> <p>○家庭学習を定着させるには、家庭の協力が不可欠である。小学校から一貫して啓発していくことが大切である。テスト前、部活動中止期間を守ることには生徒の意識付けには有効である。</p>	<p>○授業でのICT機器の利用は定着しており、各教科の様々な場面で効果的に活用できている。しかし、学習者用の一人一台端末の活用や、学習者用のデジタル教科書の活用にはまだ多くの課題が残されている。</p> <p>○「学校の授業がわかる」と回答した生徒は80%以上いるが、授業で学習した内容が家庭学習で十分に定着できていないように思われる。家庭での学習時間を確保することの指導や、学習方法の具体的な提示の仕方を改善していく必要がある。</p>
生徒指導	<p>1. 自発的なあいさつの定着を図る。</p> <p>2. いじめの予防・早期発見、生徒理解を深め、相談体制を確立する。</p>	<p>1. 教職員や生徒会役員によるあいさつ運動を実践する。</p> <p>2. 学校生活アンケートやチェックシートの活用、スクールカウンセラーとの連携により生徒理解を深め、相談しやすい組織・環境の整備に努める。</p>	<p>1. 「自ら進んで、あいさつがきちんとできている。」と答える生徒・保護者・教員が80%以上となる。</p> <p>2. いじめ予防の啓発と相談しやすい体制・組織が確立できる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、情報を共有し、事前予防ができる。</p>	<p>1. 生徒・教職員とも80%を超えたりが、保護者は73.9%で立場によって意識の差がある。今後もあいさつを奨励していく必要がある。</p> <p>2. 「教職員に相談ができる。」と答えた生徒は61.8%と少なく、教職員の生徒理解をより深める必要がある。また、保護者との連絡を密にし、情報収集・共通理解に努めたい。</p>	<p>○お互いにあいさつを交わせる環境作りが大切である。あいさつできなかった生徒も長い年月をかけるとできるようになったので、慣れも必要。また、保護者への啓発もお願いしたい。</p> <p>○数値にこだわり過ぎず、信頼関係を積み重ねていくことが大切。SNS等のトラブルに教師が気付かないこともあるので、家庭との連携をこれからも大切にしたい。</p>	<p>○今後も生徒会と教職員と一緒にあいさつ運動を積極的に行うとともに、部活動や学校行事等を通してあいさつの重要性を伝えていく。</p> <p>○生活アンケートや日々の観察からだけでなく、教職員間・保護者との情報共有や共通理解を通して、生徒に寄り添った生徒指導を心がけていく。</p>
道徳・人権教育	<p>1. 校訓の精神を基盤として、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりの気持ちを表現できる豊かな心をもった生徒を育成する。</p> <p>2. 人権の大切さを学び、人権尊重の意識や態度を身に付け、日常生活の中で人権を尊重した行動ができる生徒を育てる。</p>	<p>1. 22項目の内容を計画的に配置し、道徳性や道徳的実践力を育む。また、生徒が意欲的に活動できるような、授業形態の工夫や補助教具の活用を図る。</p> <p>2. すべての生徒が幸せであると実感するために、自他を尊重しようとする態度を育成する人権学習を進める。</p>	<p>1-①. 生活アンケートの「あいさつ・感謝の言葉を伝える」ことができる生徒が90%以上となる。</p> <p>1-②. 清掃や交通マナーなど「集団や社会の一員として」の生活内容で90%以上となる。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち、「実践できた」と答える生徒が90%以上となる。</p>	<p>1-①. 「あいさつ」の項目は82.2%と目標に届かなかった。「感謝の言葉を伝える」は94.7%と目標を上回った。</p> <p>1-②. 清掃や交通マナーなど「集団や社会の一員として」の生活内容で94%と目標を上回った。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」生徒が94.1%で、目標を上回ることができた。</p>	<p>○あいさつしない生徒に対して、引き続き、お互いにあいさつできる環境作りを努めてほしい。あいさつは気持ちの問題だと感じる。日ごろからのコミュニケーションをこれからも大切にしたい。</p> <p>○同級生だけでなく、異学年との交流を通して、自己有用感を高めていくことが大切である。小学校では、お互いの良いところを伝え合う活動を実施している。</p>	<p>○自分の意見を大切にしながら、相手を尊重できる生徒を育てたい。あいさつや奉仕活動が自ら実践できるよう、授業で道徳的実践力を育てる。また、学年全体で共通理解を図りながら取り組む。授業形態や補助教具・教材の共有を行い、効果的な授業づくりを目指す。</p> <p>○「小学校一校、中学校一校」という人間関係により、学年を越えた交流を通して、自己有用感を高めていける素地はあると考えられる。今後、学校行事などを通して、さらに自己有用感が育つような学校づくりに取り組みたい。</p>
特別支援教育	<p>1. 通常学級に在籍する配慮を要する生徒への理解を深め、支援を実施し、改善を図る。</p> <p>2. 支援学級に在籍する生徒に対して、指導計画を基に計画的な指導を行う。</p> <p>3. 教職員の特別支援教育に関する理解を深める。</p>	<p>1. 支援の在り方と、保護者や他機関との連携方法を工夫する。</p> <p>2. 担当教員間で情報を共有し、学期ごとに評価をして改善を図る。</p> <p>3. 校内支援委員会等を活用して支援体制を充実させ、教職員の理解を深める。</p>	<p>1. 「教育のユニバーサルデザインとポジティブな行動支援を心がけている。」と答える教職員が80%以上となる。れん面談を活用し、保護者との連携を図る。</p> <p>2. 指導計画を基に保護者面談を行い、保護者との連携に活用する。</p> <p>3. 校内支援委員会を年間4回以上開催し、校内支援の体制を整える。</p>	<p>1. 「ユニバーサルデザインとポジティブな行動支援を心がけている。」と回答した教員は92.3%となった。</p> <p>2. 教職員の87.6%が「個性に応じた指導と配慮を工夫している」と回答した。昨年度と比べ若干減少となった。</p> <p>3. 職員会議を活用した校内支援委員会を5回開催した。校内の支援体制を整え、情報共有を図ることができた。</p>	<p>○短期・長期の目標を設定することや、保護者との情報共有を進めながら情報共有をお願いしたい。また、保護者の思いを確認しながら、授業の構築を進めてほしい。</p>	<p>○全ての生徒にわかりやすいよう、教育のユニバーサルデザインやポジティブな行動支援など一層支援を充実させていく。また、れん面談等も活用して、保護者との連携を図り支援を行っていききたい。</p> <p>○生徒の特性や状況などを、学年・学校として共有していく。また、指導計画に沿った指導の充実を図るために研修等に努めるとともに、保護者連携に活用していききたい。</p> <p>○教職員・保護者・SC・医療機関等の連携を密にし、様々な要望や状況への対応力を高める。</p>
健康・安全指導	<p>1. 自分の心身の発達に関心を持ち、健康の保持増進に努める。</p> <p>2. 校内の危険箇所の発見・修理により安全な学習環境を保持する。</p>	<p>1. 健康力アップ作戦を基に、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む。</p> <p>2. 施設・設備の定期点検を行い、危険箇所の早期発見、早期修理に努める。</p>	<p>1. 「心身の健康に気を付けた生活が送れている。」と答える生徒が85%以上となる。</p> <p>2. 「校内の危険箇所をすぐに修理してくれている。」と答える生徒・教職員が80%以上となる。</p>	<p>1. 「心身の健康に気を付けた生活が送れている。」と答える生徒は84.9%となり、昨年度より0.3ポイント増加した。</p> <p>2. 教職員88.5%であったが、生徒は50.0%となり、目標値に届かなかった。加えて、生徒と教職員で意識の差が見られた。</p>	<p>○生徒間のトラブルで学校に遅刻したり登校しづらくなったりすることがある。これらを未然に防止するには、学校が生徒にとってより魅力的な場になることが大切である。</p>	<p>○身体面の健康はもちろん、心の健康にも気を配った保健教育・保健指導を行っていききたい。</p> <p>○今後は、更に生徒・教職員の声に耳を傾けていくことで対処をしていき、学校が安心・安全な環境となるよう努めたい。</p>
地域・学校づくり	<p>1. 保護者や地域の方々に、学校経営方針や教育活動の状況について説明し、連携・協働体制を確立する。</p> <p>2. 学校運営協議会を活用し、学校と地域が情報を共有し、課題解決に向かうことができるようにする。</p>	<p>1. 授業参観や津田中祭等の教育活動の様子を見てもらったり、学校ホームページや学年だより、マチコミメールによる情報発信を積極的に行ったりする。</p> <p>2. 教育活動において地域の人財を活用し、PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりに努める。</p>	<p>1. ホームページの更新やオープンスクールの実施により、「学校の様子がわかる。」と答える保護者が80%以上となる。</p> <p>2. 「学校・家庭・地域が連携できている。」と答える保護者・教職員が70%以上となる。</p>	<p>1. 目標値80%に達することができなかった。肖像権や著作権の問題があり、発信する情報が限定されることが原因であると考えられる。情報を発信する際に、工夫を加えていく必要がある。</p> <p>2. 目標値の70%以上に達し、保護者と教職員の差は昨年度より2.9ポイント縮まった。学校運営協議会の協力を得ながら、教育実践が行われた成果であると考えられる。</p>	<p>○学校ホームページと連絡メールを組み合わせるにより、適宜、学校の情報を発信してほしい。</p> <p>○学校が家庭・地域と協力しながら子ども達を育てていくことが大切。これからは「学校・家庭・地域」での共通理解を大切に学校運営を進めてほしい。</p>	<p>○学校ホームページと連絡ツールを併用して、今後も情報発信に努めていく。学校の様子がより伝わりやすくなるよう、学校ホームページの充実を図っていききたい。</p> <p>○次年度も、学校運営協議会制度を活用し、地域の方々と連携し、学校教育の充実を推進するとともに、地域とともにある学校づくりに一層取り組んでいきたい。</p>